弓道

63-1号

S63.4.20

県下弓道選手権大会

各種別とも大接戦

四月十七日に行われた選手権大会は、エントリー数二八名（参加実人員九〇名）。はじめの種別が同中競射をおこなう大接戦の末、次のように賞がきまった。

種別	一位	二位	三位
女子	戸塚綾子 6中	小田切清美 6中	神 教枝 5中
二段以下	本間敏雄 5中	千葉厚隆 4中	遠藤浩一 4中
三段	河野四郎 7中	高野光幸 6中	鳶 孝 5中
四段	智点雄 6中	深沢 勇 6中	笛 昭 6中
五段	塩島健一 6中	上楠 亨 6中	功刀操 6中
称号	保坂美文 8中	西堀泰弘 7中	塚越朝太郎 7中

この中で、国体強化選手や若い選手たち競り合って堂々入賞を果した塚越さん（80才）の活躍は、みごとと言うほかはない。脱帽!!

支部別入賞数ベストスリーは、中区6、南区4、東八3となる。

なお、あわせて行われた「全日本弓道連盟選手権大会」「関東選抜弓道大会」の予選会に於いて、第次候補選手がえらばれ、六月十九日の第二次予選会に進出することになった。第二次候補の人数は次の通り。

全日本弓道連盟選手権大会　男子　大名
〃　女子　二名
関東選抜弓道大会　称号者　十一名
〃　有段者　十一名

松下電器とNTT山梨が代表に

「全国勤労者弓道選手権大会」

ことしの勤労者選手権大会は、北海道ルベシベ町で開催されるが、その山梨代表を決める予選会を四月十日に行った。しかし、南信地が遠いということもあってか常連の増穂役場、東電、宇佐美建設、JR甲府などのエントリーがなく、結局早々に名のりをあげた、松下甲府工場とNTT山梨のニチームが予選会をまたず、山梨代表と決定した。松下は三年前の本大会で決勝トーナメントに進出した実績をもち、またNTTも既にその大会出場を四回という ベテランで、いずれも今回はその活躍が期待できそう。ご健斗を祈る。

なお、この大会、来年は福岡県で開催の予定。出来得れば県予選会を、そく八チームぐらいで競り合うぐらいにしたいもの。各企業、各チームの奮起を願ってやまない。

〈連載〉山弓連の歴史を創ってきた人々〈編〉

①坐光寺貞良氏（86才）

＝山連名誉会長＝

弓を始めたのは大正の末頃だから、既に六十余年になる。今でも毎朝、夜は五時に起きでは大時には道場に出て一日たりとも稽古をおかさない。弓道歴の記録はこれからもまだまだかなり延びそう。この頃はさすがに疲れやすくなったが、強い弓は引けなくなったがしかし自慢の離れの冴えはまだまだ若い者に負けない。また老ワク射礼のやり方の銃さは、「まさに純正」という評判。この年令にしてこの元気――われわれ後輩としては、はて靴と いんこと だ。

（次回は、遊園最前会長の予定）

戦後山弓連の再建に参画し、会長に、市川弓道場までおはこびを。戦後山弓連の再建に参画し、会長でも十年、現役は名誉会長。

特に山梨のドン的存在。

記録では、若い頃と違って最近は大分気が長くなったといえるが、一方その分だけ会が短かくなったとも。

この頃時々膝の痛みを訴えることがあるが、しかし気が若いからまだ大丈夫。頑わく健康に気をつけて、七十年、八十年をめざして現役期間記録を更新なさいますよう。

見習いたい人は、この時刻に、市川弓道場までおはこびを。

各地の話題いろいろ

桜まつり大会（鰍沢）4.3

桜が咲かず、枝まつりとなる。

団体戦は上野原が前年に引続き二連勝。しかも女性三人を含む異色チームの優勝だった。山梨からもヤマニパー到来も個人賞の方は深沢選手（笛吹）が辛うじて入賞になった。

二宮神社射会（御坂）4.3

参加者82名、他町の射会と日が重なったため参加者が分散し、こじんまりした大会になった。

一位 小宮山庫南 12射9中
二位 萩山忠夫 12射8中
三位 千葉厚隆 12射8中

なお会的は石和技連の型。

神社射会（勝沼）4.4

人20射たっぷり楽しんだ。

一位 小宮庫南 14中
二位 小松 健 13中
三位 丸宇部 13中

ベテラン勢が気を吐いた。

ところでこの射会、歴史ある古い射会場を古くて狭く今年あたりを最後にしようかと思っていたとニカ。〜

神社射会（勝沼）4.4

式の席上、ある女性連盟者の「神社射会を見学して、神域の雰囲気と弓の所作の取り合わせに心を打たれて弓道教室に参加した」という発言があった。

というわけで、やっぱり来年以後も存続して両信するということに参加者の意見をまとめて最終決定することが出来た。

全国大会めざす柳中

東北から中学生の全国大会が両県される三年になり、（アッ27東京）早くも柳中弓道部から参加申し込み平均が届いた。外部コーチの小林堀治大寺の指導のもと目下猛特訓中という。大きな目標をめざして稽古することは、心の張りを生み、大きな進歩につながる。

昨年の全国中学通信大会で堂々入賞した柳中ウラ人の入賞者もあり、ここで一気に全国上位へ食い込んでほしいところ。

来後のある他の中学も柳中に刺激されて奮起されることを期待する。

〈連載〉山弓連の歴史

栄光の跡

団体の部

昨年の海邦国体で少年女子連覇優勝、一昨年のねんり国体で少年女子、成年女子の連覇、準優勝と、このところ団体の好成績が続いているが、過去にも次のような栄光の歴史がある。

◇第十二回国体（三島）
- 一般男子　連覇　優勝
- 高校男子　連覇　優勝（山梨県林）

◇第十九回国体（二条）
- 高校女子　連覇　優勝（韮崎高校）
- 高校女子　連覇　優勝（韮崎高校）
- 女子総合　優勝

〜そして

◇第二十四回国体（和歌）
- 少年女子　連覇　優勝（山梨選抜）

ということになる。

栄光の歴史を守っていきたい。

○山弓連だよりリニューアルこれの第2号を送ります。出来るだけ各地の話題をも取り上げたいので、情報をお知らせ下さい。次号は5月末の予定です。

○全日連発行の弓道誌「射」は現在一五三人です。ナンセンスです。テクニカル」と思えるが、どうなりの人にもすすめて下さい。月刊で年間購読料三五〇円。安いもの。申込書は事務局にあります。

○ことしの賞状は「高校」「一般」ではなく「優良」と「段級」別になるの心注意。

事務局 加ら

※購読者数は現在一五三人です。